平成 14（2002）年 1 月～6 月**長期漁況海況予報**平成 14（2002）年 1 月発行

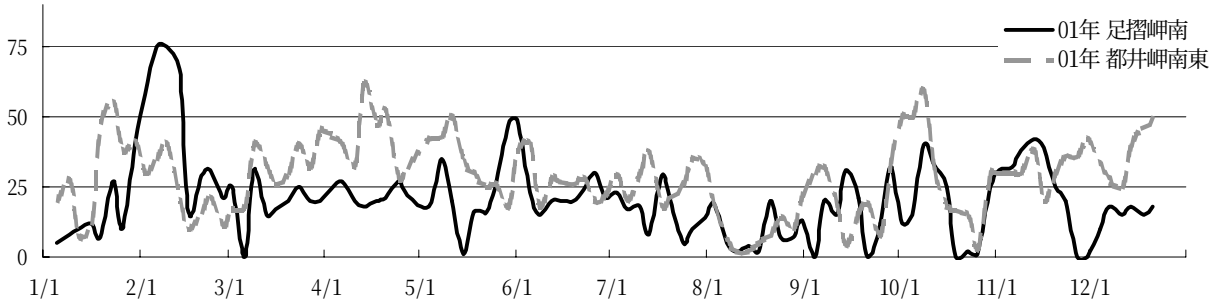
大分県海洋水産研究センター　879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦
Phone0972-32-2155　Fax.0972-32-2156　http://www.mfs.pref.oita.jp

海況経過<平成 13 年後期>

■黒潮

8月中旬に足摺岬沖を小さな蛇行（離岸現象）が通過しました。9月下旬には九州南東沖に小蛇行が発生し、10月上旬に足摺岬沖を、10月下旬に室戸岬沖を通過しましたが、潮岬沖を通過して発達することはありませんでした。11月上旬に薩南海域で離岸現象が発生し、その後小蛇行となり東進し、11月下旬には豊後水道外域に達し、12月中旬に足摺岬沖を通過しました。その他、9月に南西外海および瀬戸内海で異常潮位がみられました。

黒潮北縁と都井岬及び足摺岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました（南西東海沿岸海況速報による）。



足摺岬：接岸 0～25 マイル　やや離岸 25～45 マイル　　都井岬：接岸 0～30 マイル　やや離岸 30～50 マイル

図 1　足摺岬南方及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離（マイル）

■水温（表1参照）

豊後水道の水温は、「きわめて高め」～「やや低め」で推移しました。大分県側の海域を北部（沿岸定線Sta.1-9）、中部（同Sta.10-16）及び南部（同Sta.17-22）に分けると、北部では7月は「やや高め」～「平年並」でしたが、8月は各層「高め」、9月は各層「やや高め」であることが多く、10月は全層で「きわめて高め」、11月から12月にかけては「平年並」となりました。中部では7月、9月、11月及び12月は各層「平年並」であることが多く、8月は各層「やや高め」、10月は各層「高め」の傾向となりました。南部では7月は各層「平年並」、8月から11月にかけては各層「やや高め」であることが多く、12月は「平年並」となりました。

伊予灘と別府湾では、概ね「やや高め」～「平年並」で推移しましたが、8月は各層マイナス基調であることが多く、また、伊予灘7月の0m層で「きわめて高め」となりました。

■塩分

豊後水道の塩分は、南部の9月で「やや低め」傾向となった他は、期間を通して各層「平年並」であることが多い状況となりました。

伊予灘と別府湾では、7月から10月にかけては概ね「やや高め」～「平年並」、11月から12月にかけては概ね「平年並」で推移しました。

表1 沿岸水温の平年偏差の評価（2001年）

	海域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
伊予灘	0m	＋－	＋－	－＋	＋－	－＋	＋	＋＋＋	＋	－＋	＋	＋	＋－
	10m	＋－	＋－	－＋	＋－	＋－	＋－	＋－	－＋	－＋	＋	＋	＋
	20m	＋－	＋－	－＋	＋	＋－	＋	＋－	－	－＋	＋	＋	＋
	30m	＋－	＋－	－＋	＋	＋	＋	＋－	－＋	＋－	＋＋	＋	＋
	50m	＋－	＋－	＋－	＋	＋	＋＋＋	＋－	－＋	＋－	＋	＋	＋－
別府湾	0m	＋	＋	＋－	－＋	＋	＋－	＋	＋	－＋	＋	＋	＋
	10m	＋	＋	＋	－＋	－＋	＋－	＋－	－＋	＋	＋	＋＋	＋
	20m	＋	＋	＋	＋－	－＋	＋－	＋－	－	＋	＋	＋＋	＋
	30m	＋	＋	＋	＋－	＋－	＋	＋－	－	＋－	＋＋	＋	＋
豊後水道北部	0m	＋－	＋	＋	＋	＋＋＋	＋＋＋	＋－	＋	＋－	＋＋＋	＋－	＋－
	10m	＋－	＋	＋	＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋	＋＋	＋	＋＋＋	＋－	＋－
	20m	＋－	＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋＋	＋	＋＋	＋	＋＋＋	＋－	＋－
	30m	＋－	＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋＋	＋	＋＋	＋	＋＋＋	＋－	＋－
	50m	＋－	＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋＋	＋－	＋＋	＋	＋＋＋	＋－	＋－
豊後水道中部	0m	＋－	＋	＋	＋	＋＋	＋＋	＋－	＋－	＋－	＋＋	－＋	－＋
	10m	＋－	＋	＋	＋	＋＋	＋＋	＋－	＋	＋－	＋＋	＋－	－＋
	20m	＋－	＋	＋	＋	＋＋	＋＋	－＋	＋	＋－	＋＋	＋－	－＋
	30m	＋－	＋	＋	＋	＋＋	＋＋	－＋	＋	＋－	＋＋＋	＋－	－＋
	50m	＋－	＋	＋＋	＋	＋	＋	－	＋	＋－	＋＋	－＋	＋－
豊後水道南部	0m	＋－	＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋－	－＋	＋－	＋	＋	－＋
	10m	＋	＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋	－＋	＋	＋－	＋	＋	－＋
	20m	＋	＋	＋－	＋＋	＋＋	＋	－＋	＋	＋	＋	＋	－＋
	30m	＋	＋	＋－	＋	＋＋	＋	－＋	＋	＋	＋	＋	－＋
	50m	＋－	＋－	＋－	＋－	＋＋	＋	－	＋	＋	＋＋	＋	＋－

注)＋＋＋：きわめて高め　＋＋：高め　＋：やや高め　＋－：高めの平年並

－＋：低めの平年並　－：やや低め　－－：低め　－－－：きわめて低め

海況の見通し＜平成 14 年前期＞

■黒潮

潮岬以西における黒潮流軸の変動としては、薩南海域の黒潮北縁は屋久島付近から屋久島の南での変動を主とした離岸傾向で推移するでしょう。１月後半に九州南東沖で小蛇行が形成され、２月～３月にこの小蛇行が四国沖を東進し、それに伴って室戸岬沖～潮岬沖で離岸傾向となるでしょう。九州南東沖では３月前半には接岸傾向に戻るでしょう。また、５月前半に再び九州南東沖で小蛇行が形成され、５月後半～６月にこの小蛇行が四国沖を東進し、それに伴って室戸岬沖～潮岬沖で離岸傾向となるでしょう。九州南東沖では６月後半には接岸傾向に戻るでしょう。

潮岬以西の沿岸域では黒潮の小蛇行の通過や小規模な離接岸変動に伴って沿岸域への一時的な暖水波及が起きるでしょう。

■水温

「平年並」～「高め」でしょう。

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成13年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ長期漁海況予報会議資料（2001）

福岡管区気象台：九州北部地方３か月予報（2001）、九州北部地方寒候期予報（2001）

資源状況と漁況経過＜平成 13 年後期＞

■マイワシ

■ 昨年までの経過

鶴見町、米水津村及び蒲江漁業協同組合のまき網（特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3漁協に関するもの）によるマイワシの漁獲量は、1986年から1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。

1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に一旦増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少し、約450トンと最低値を記録しました。

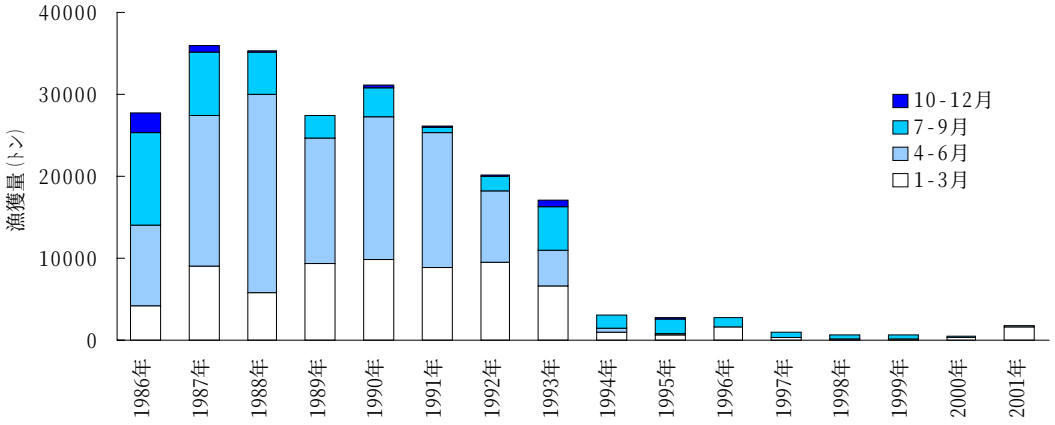


図2　マイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

■ 本年の経過

2001年下半期の月別漁獲量は0～16トンの範囲で、平年比は0～1%と、ほとんど漁獲がなく、低水準で推移しました（以下、まき網の平年値を1986～2000年の平均漁獲量とする）。

本年は 1 月（211 トン・平年比 68%）、2 月（1,442 トン・平年比 156%）にまとまった漁獲となった他は、依然として平年を大きく下回る漁獲が続きました。

■カタクチイワシ（成魚）

■ 昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年（偶数年）で2,000～3,000トン程度、漁獲の少ない年（奇数年）で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、最高値を記録しました。平年の漁期は6月から9月までが中心であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トンと、漁獲の多い年である偶数年の水準に戻りました。

■ 本年の経過

2001年下半期の月別漁獲量は16～718トンの範囲で、平年比は30～158%となりました。このうち、7～9月の四半期は各月好調で、1,509トン・平年比139%となりましたが、10月は81トン・平年比65%、11月は16トン・平年比30%と、不漁に転じました。また、サイズ別にみると、本年は小サイズのじゃみ等が記録的な豊漁となりました。

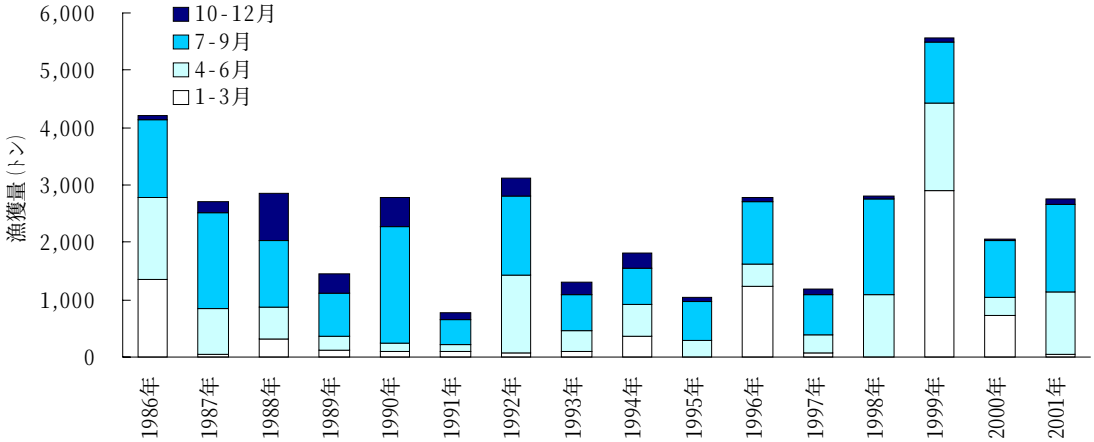


図3　カタクチイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

■カタクチイワシ（シラス）

■ 昨年までの経過

佐伯湾（佐伯・鶴見）の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年に約170トンと最低値を記録しました。その後は、増加傾向を示していますが、1993年以前の水準には及びませんでした。

別府湾（杵築・日出）では1990年以降1,200～2,200トンの範囲で変動し、1998年の漁獲量は、1990年以降初めて1,000トンを割り、約750トンと最低値を記録しました。そして、1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりました。

臼杵・津久見湾では年変動が大きく、0～105トンの間で変動し、2000年の漁獲量は36トンで、平年比97%となりました（以下、船曳網の平年値を1991～2000年の平均漁獲量とする）。

推計方法：別府湾の漁獲量＝製品（ちりめん）重量×2.514、　豊後水道の漁獲量＝製品（ちりめん）重量×2.380

■ 本年の経過

2001年下半期の月別漁獲量は、佐伯湾では4～59トンの範囲で、平年比は9～208%となりました。このうち、8月（59トン・208%）は平年を上回りましたが、他の月は低調に推移しました。別府湾では42～302トンの範囲で、平年比は24～163%となりました。このうち、8月（302トン・163%）は平年を上回りましたが、他の月は平年を下回りました。また、イリコの漁獲量については、佐伯湾では9～10月に、別府湾では9月に、それぞれ平年を大きく上回りました。

臼杵・津久見湾では0～4トンの範囲で、平年比は0～95%となりました。

■ウルメイワシ

■ 昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でありましたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じています。漁獲は主に夏期の6～8月に多くなりますが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました。

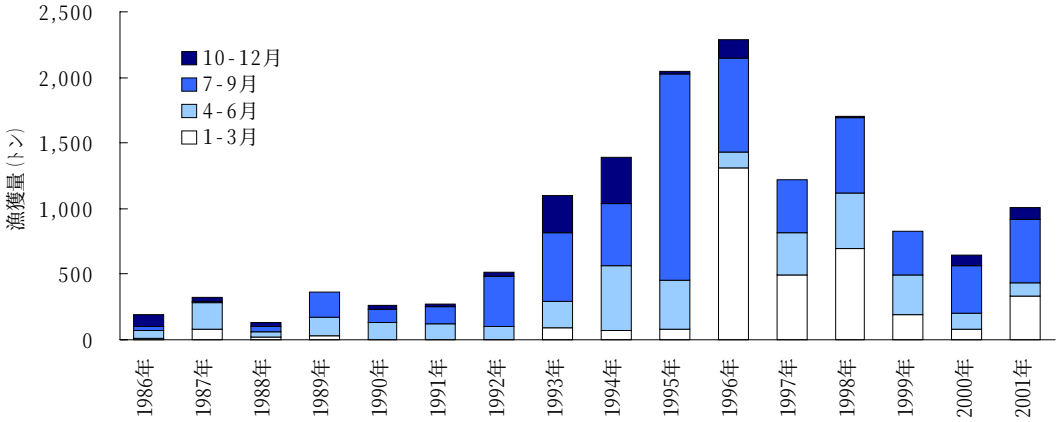


図4　ウルメイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

■ 本年の経過

2001年下半期の月別漁獲量は28～196トンの範囲で、平年比は76～223%となりました。このうち、7月（136トン・平年比73%）は本年3月からの不漁が継続しましたが、8月（150トン・平年比123%）はまとまった漁獲となり、9月以降は平年を大きく上回りました。7～9月の四半期は483トン・平年比124%、10月は69トン・平年比213%、11月は28トン・平年比174%となりました。

■マアジ

■ 昨年までの経過

1986年以降、減少傾向にあったまき網によるマアジの漁獲量は、1991年に1,000トンを割り込みましたが、その後は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、最高値を記録しました。1999年前半も継続して豊漁でしたが、それ以降一転して激減し、この不漁は2000年7月まで続いた後、同年8月からは再び豊漁に転じました。そして、最終的には1999年、2000年ともに約3,700トンの漁獲量となりました。

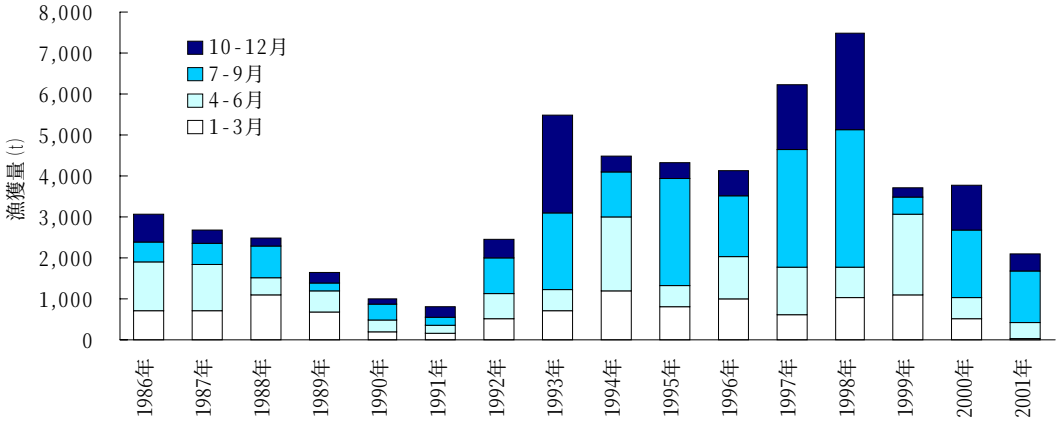


図５　マアジのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向で、1999年には248トンに達し、最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン（平年比83%）と落ち込み、これまでの安定的な増加傾向に陰りがみられました（以下、佐賀関町漁協の平年値を1988～2000年の平均漁獲量とする）。

■ 本年の経過

まき網による2001年下半期の月別漁獲量は106～828トンの範囲で、平年比は22～183%となりました。このうち、7月（152トン・平年比42%）、8月（281トン・平年比66%）は昨年12月からの不漁が継続しましたが、9月（828トン・平年比180%）は豊漁に転じたため、7～9月の四半期は1,261トン・平年比101%となりました。10月（106トン・平年比22%）は再び低迷しましたが、11月は小サイズを中心に好調で、317トン・平年比183%と平年を上回りました。

佐賀関町漁協の釣りでの2001年下半期の月別漁獲量は11～28トンの範囲で、平年比は72～176%となりました。このうち、7～9月の四半期は好調で74トン・平年比135%となりましたが、10月は17トン・平年比92%、11月は11トン・平年比72%と平年を下回りました。

■マサバ・ゴマサバ

■ 昨年までの経過

まき網による「さば類（マサバ・ゴマサバ）」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをあげて豊漁となりました。「さば類」のうち、マサバは、近年、漁獲がほとんどない状況であり、一方、ゴマサバは、1994年以降、体長25～28cmの個体を中心に漁獲され、豊漁だった1996年は9月から10月中旬にかけて、1997年は8月から9月にかけて漁獲がピークに達し、記録的な漁獲となりました。しかしながら、1998年は一転してほとんど漁獲がなく、1,000トンを割り込んで最低値を記録しました。そして、1999年からは低水準ながら増加傾向を示しました。

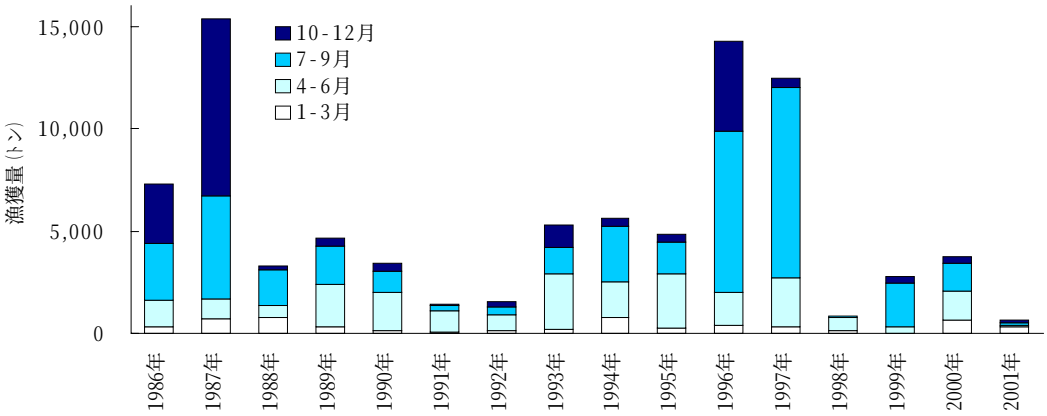


図６　「さば類」のまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動し、1997年以降は減少傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

■ 本年の経過

まき網による2001年下半期の月別漁獲量は0～132トンの範囲で、平年比は0～17%と大低迷しました。7～9月の四半期は136トン・平年比5%となり、10月は132トン・平年比17%、11月は2トン・平年比1%となりました。本年は2月（344トン・平年比348%）に豊漁となった他は、平年を大きく下回る漁獲が続きました。

佐賀関町漁協で漁獲されたマサバの2001年下半期の月別漁獲量は、1～24トンの範囲で、平年比は27～318%となりました。このうち、10月（1トン・平年比27%）は不漁となりましたが、他の月は平年を上回りました。

漁況の見通し＜平成14年前期＞

■マイワシ

【太平洋系（北薩－熊野灘）の見通し】

北薩～紀伊水道西部では前年並みか前年を下回る低水準でしょう。紀伊水道東部では前年を上回るでしょう。熊野灘では1歳魚は前年を上回り、2歳魚は前年並みで、全体として前年を上回って近年としては高水準となるでしょう。

[説明]　資源水準は過去 20 年では低位、ここ5年では減少傾向にあります。1999 年級群の豊度はコホート解析結果から極めて低いと判断され、漁場にもほとんど出現していません。2000 年級群の加入量水準は 1999 年級群をかなり上回り、近年では豊度が高かった 1998 年級群をやや下回っていると判断されますが、これまでの漁況の推移から残存量は少ないと考えられます。2001 年級群は産卵量、マイワシシラスの混獲率、漁況経過等から判断して、ある程度の魚群が当該海域北部を中心に滞留していると考えられます。

【大分県の見通し】

0 歳魚の来遊水準は低いままであり、1 歳魚以上についても来遊水準が高まったといえる状況にはないため、全体としては、2月の豊漁が効いて 1994 年以降最高の漁獲となった前年を下回り、依然として低水準でしょう。

■カタクチイワシ（成魚）

【太平洋系（北薩－紀伊水道）の見通し】

前年並みか前年を下回り低調でしょう。

[説明]　資源水準は過去 20 年では高位、ここ5年では横ばい傾向にあります。1999 年級群はこれまでの漁況の推移から近年としては低豊度と推定されます。2000 年級群の豊度も低く、2001 年級群についても各地のシラス漁況から高くないと考えられます。

【大分県の見通し】

成魚は 0 歳魚の漁獲が大半で、来遊水準は回復に向かっていると考えられ、前年･平年並みとなるでしょう。

また、シラスは平年を下回るでしょう。

■ウルメイワシ

【太平洋系（北薩－熊野灘）の見通し】

北薩～薩南、豊後水道東部では前年を上回るでしょう。日向灘では前年並みか前年を上回るでしょう。豊後水道西部、土佐湾、紀伊水道東部では前年並みでしょう。紀伊水道西部では低調の前年並みでしょう。熊野灘では前年並みか前年をやや上回るでしょう。

[説明]　資源水準は過去 20 年では中位、ここ5年では横ばい傾向にあります。2001 年級群の豊度はこれまでの漁況の推移から 2000 年級群を上回ったと考えられますが、来遊水準の高い海域と低い海域が見受けられます。

【大分県の見通し】

好不漁の月変動が大きいものの、来遊水準は増加傾向にあると考えられ、前年･平年並みとなるでしょう。

■マアジ

【太平洋系（薩南－日向灘・豊後水道）の見通し】

薩南では前年並み、日向灘・豊後水道では前年を上回るでしょう。

[説明]　資源は中水準で、減少傾向にあります。2000 年級群は加入が良好であったにもかかわらず、2001 年に入り多くの海域で来遊が途絶えた模様です。2001 年級群の来遊量は薩南～日向灘・豊後水道では前年を上回ったと推定されます。黒潮による暖水波及等が起きれば、マアジの来遊には好条件となります。

【大分県の見通し】

来遊水準は減少傾向から回復に向かっていると考えられ、不漁の前年を上回り、平年並みとなるでしょう。

■マサバ・ゴマサバ

【太平洋系（薩南－日向灘・豊後水道）の見通し】

ゴマサバ 1 歳魚は少なかった前年並み、ゴマサバ 2 歳以上は前年を下回るでしょう。マサバは低い水準でしょう。さば類全体としては、前年をやや下回るでしょう。

[説明]　（ゴマサバ）近年では 1999 年級群の豊度が比較的高く、2000 年級群の豊度は、かなり低かった 1997 年級群、1998 年級群と比較し、やや高い程度と推定されます。2001 年級群の加入水準はこれまでの漁況の推移から極めて低いというわけではないので、海域によっては一時期まとまった来遊をみる場合もあるでしょう。

（マサバ）2001 年級群の豊度は各種調査、漁況経過等から極めて低水準と判断されます。

【大分県の見通し】

来遊水準は非常に低い状態で停滞していると考えられ、不漁の前年並みで、平年を大きく下回るでしょう。

その他

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成13年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ長期漁海況予報会議資料（2001）

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター　企画・海洋資源利用部（〒879-2602大分県南海部郡上浦町大字津井浦　電話0972-32-2155ファクシミリ0972-32-2156　e-mail：kimura@mfs.pref.oita.jp）です。